

みなべ・田辺の梅システム



画像提供：田辺市観光振興課



世界農業遺産

平成27年12月認定

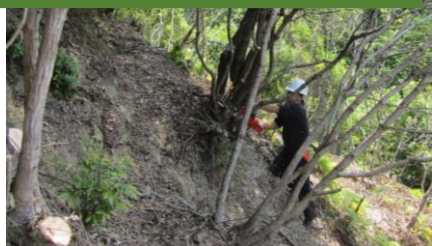
和歌山県みなべ・田辺地域

みなべ・田辺地域は、その土地を養分の乏しい礫質の斜面が占めており、斜面にウバメガシなどの薪炭林を残しつつ梅林を開墾して、高品質な梅を生産しています。薪炭林は水源涵養や崩落防止等の機能を保持するとともに、ウバメガシからは堅くて良質な「紀州備長炭」が生産されています。



みなべ町
田辺市

紀州備長炭の薪炭林



炭焼き職人がウバメガシやカシを択伐（たくばつ）することで、山が荒れるのを防いでいます。

多様な生態系の維持



梅林や薪炭林にはオオタカ、ため池や水田にはアカハライモリなどの希少種が確認されています。

里山が育み、人がつなぐ日本一の梅づくり



ミツバチと梅の共生



梅の多くは自家受粉できないため、他の品種を近くに植え、受粉にはニホンミツバチが利用されます。

高品質の南高梅を生む技術



地域の多くの梅生産農家は、収穫した梅を白干しにする一次加工まで実施。その後、加工業者が脱塩・調味などの工程を加えて商品化しています。この「地域の生産者と加工業者との連携」が本地域の南高梅というトップブランドを生み出しています。

世界農業遺産認定による効果

梅・紀州備長炭の生産振興

梅と備長炭を中心とする生業の維持発展

- みなべ町・田辺市で生産される南高梅、紀州備長炭は日本の最高級(トップブランド)
- みなべ町・田辺市の農家の9割以上が梅を栽培し、梅干し等の二次加工業の企業が地域内に集積。製炭も山間部の産業として大きな存在であり、梅と備長炭に関わる人々の生業が地域全体に拡大



▲南高梅



▲紀州備長炭

- 梅栽培面積 : 4,060ha (H22) → 3,970ha (R4)
- 梅生産量 : 44,000t (H24) → 59,616t (R4)
- 梅新品種普及面積: 81ha (H25) → 217ha (R4)
- 山管理技術講習会参加: 30人 (H25) → 78人 (R2~3)

将来を見据えた次世代への継承

伝統技術の継承と後継者育成

- 生産者の姿、ランドスケープ、生物多様性、伝統技法、伝統文化などを伝承していくため、学びの機会を広く提供

- 教育機関と連携した梅システムマイスターの養成:
9人 (H29) → 累計44人 (R7)



▲紀州備長炭窯出し体験

- みなべ・田辺地域を支える人材の確保と育成、多様な主体が参画する仕組みづくりと受入体制の充実

- 教育機関での食育学習会:
48回 (H25) → 212回 (R4)



▲教育機関での食育学習及びイベント

観光体験の充実

「みなべ田辺の梅システム」が支える本地域の魅力アップ

- 観梅・梅干工場見学・観光炭焼き体験・伝統行事など観光体験と地域への滞在。システムを説明できる場所・人材を充実
- 官民地域連携で取り組む梅収穫ワーケーション®、都市農村交流による協働活動で関係人口を創出し地域を活性化



▲紀州田辺石神梅林
画像提供: 田辺市観光振興課



▲梅収穫ワーケーション®
画像提供: 一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会

- うめ・炭情報発信施設の来館者:
53,999人/年 (H25) → 60,678人/年 (R4)
- みなべ梅林入場者数:
24,649人 (H28) → 31,175人 (R8)

梅システムの国際的な貢献

「みなべ田辺の梅システム」の国内企業や諸外国へ向けた情報発信

- 世界農業遺産認定地域や諸外国との連携した情報共有、交流を発展

- ロゴマークを活用する企業数:
18社 (H28) → 累計132社 (R7)
- イベント・プロモーション参加:
4件 (H27) → 22件 (R7)

- 世界的な重要性を発信するとともに新たな認定を目指す途上国を支援

- 海外研修生: 28人 (H28) → 累計133人 (R7)
- 受入国数: 2カ国 (H28) → 累計14カ国 (R7)



▲世界農業遺産認定地域間交流イベント



▲海外研修生の受入